

建学の精神 『自然から学ぶ』

1 本園の教育目標

- ・思いやりのある子 ・考える子 ・たくましい子

【各学年のねらい（年間）】

年 齢	年間のねらい	自己評価	評価内容
0歳児	保育教諭との触れ合いを通して安心した気持ちで過ごし、様々な事情に興味をもって遊ぶ楽しさを感じる	A	・コロナ禍でストレスのかかる中での園生活だったが、子どもたちの様子からは、どの年齢もおおむね目指してきた姿に達することができたと考えている。 ・どの年齢も個人差があり、学年によっては個人差が出た部分もあるため、次年度はより職員間の連携を密にしながらねらいを意識した援助を行えるよう努めていく。
1歳児	様々なものに興味をもち、保育教諭や友達と触れ合いながら一緒にのびのびと遊ぶことを楽しむ		
2歳児	保育教諭や友達に親しみをもって関わったり、一緒に遊んだりすることを楽しむ		
3歳児	様々な遊びや活動に興味や期待をもって参加する中で、自分の気持ちを言葉で表現し、保育教諭やいろいろな友達と遊ぶ楽しさを感じる		
4歳児	様々な遊びや活動に意欲的に参加する中で、いろいろな友達に思いやりや関心をもち、気持ちを伝え合いながら関わることを楽しむ		
5歳児	いろいろな遊びや活動に自発的に取り組む中で、友達の良さを認め合いながら、一緒に目的に向かうことややり遂げる充実感を味わう		

学校関係者評価委員会の評価

評 価	意 見 等
A	・遊びのバリエーションがいろいろとあってよい。 ・毎日違う遊びを経験でき良い刺激になっている。連絡ノートの様子を見るのが楽しみ。 ・子どもが楽しそうに園での話をする様子から、愛情ある関りがよくわかった。徐々にできることや、友達との関りが増え、成長したと実感している。 ・参観日やシアター等で、子どもたちが日々頑張ってきたことがわかって良かった。

評価（ A:成果を上げている B:ある程度成果を上げている C:もう少し努力が必要である D:改善が必要である ）

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

項 目	令和2年度における取組	自己評価	評価内容
保護者との連携	・通信アプリ『コドモン』を活用し、素早い対応を心掛ける。 ・配布物の内容検討と見直しをする。	B	・コロナ禍での幼稚園部門の臨時休園時等、通信アプリは効果的だった。 ・昨年度のアンケートで、園から発信する発行物のボリュームや発行数改善の要求があった。 コロナ禍でもあり、情報収集からも発行のタイミングが直前になり、伝えることが多くなってしまい、工夫はしたものの、発信数、ボリュームともに多くなってしまった。 今後も理解してもらえるよう工夫して行っていく。
学校関係者評価委員会の評価			
評 価	意 見 等		
B	・通信アプリの活用をさらに充実させたい。 ・様々な状況への対応が適切であった。 ・動画配信がほしい。		
項 目	令和2年度における取組	自己評価	評価内容
職員間の連携	・報連相を意識する。 ・伝え漏れがないよう1日の中で行う会議を記録し、会議に参加できない職員には共通理解ができるように工夫して伝える。 ・職員連絡網等で、素早い対応を心掛け周知する。	B	・報連相を意識し、会議や打ち合わせに参加できない職員も共通理解ができるよう、内容によっては職員連絡網（通信アプリ）を使用し、素早い対応を心掛け周知できるようにしてきた。 - 職員のシフト変更での調整間違いはないが、子どもの降園時間や園バス、預かり保育の変更など、急な対応での伝え漏れは出ている。 - 今後は、通信アプリの活用を検討していきたい。
学校関係者評価委員会の評価			
評 価	意 見 等		
A	・園の雰囲気が良い。 ・通信アプリの活用等で伝え漏れ防止をしたい。		
項 目	令和2年度における取組	自己評価	評価内容
乳児・幼児の交流	・身近な園生活の中で、交流の機会をもつ。 ・週案での計画を綿密に立て、無理のない交流をもてるようにする。 ・研究保育などを通して、様々な年齢での成長や様子を学ぶ機会を設ける。	A	・今年度の課題として取り入れていたが、コロナ禍での状況からこれまでのような交流が難しいため、人数等を制限し、その中でも主に乳児2歳児クラスと幼児3歳児クラス間での交流を中心に行った。 - また、進級を見据え、1月からは回数を増やすことができた。
学校関係者評価委員会の評価			
評 価	意 見 等		

A	・コロナ禍での配慮があった。 ・交流の機会を、これからもできる範囲で続けると良い。		
項 目	令和2年度における取組	自己評価	評価内容
新型コロナウイルスに対する衛生管理	・職員・園児の毎日の検温、手洗い、消毒を徹底する。 ・園内や玩具・遊具の消毒、園内の定期的な換気、衛生管理を意識して感染症拡大防止に努める。 ・ソーシャルディスタンスを確保し、3蜜をなるべく回避する。	A	・園環境や保育全般を見直し、安心して安全な環境作りを行った。 ・職員がコロナウイルスについて学ぶ機会を設ける。その中で職員一人ひとりがウイルスやソーシャルディスタンスについての理解を深め、園として子どもたちが安心して安全に過ごすためには何を行わなければいけないのか、何が大切で重要なのかを明確にし、予防知識を深め意識してきた。 ・職員・園児も日々検温や手指消毒を行い、また園内や玩具・遊具もこまめに消毒することで、より衛生管理を意識し感染拡大防止に努めた。 ・多くの園児が利用し、訪問者が訪れる幼児側・西玄関にサーモグラフィカメラを設置した。 ・密になる保育や行動を避け、その中でも子どもたちが安全で楽しく過ごせるよう保育の創意工夫を行った。 また、日々の報告会の中で気付いたことや配慮などを伝え合い互いの情報を共有した。 ・幼稚園部門の臨時休園期間に、2号認定・新2号認定の可能な限りの保育を実施した。 * 玄関、保育室に消毒液(手指用アルコール)を設置 * 園内の多く触れられる場(玄関・トイレ・手洗い場・各ドアノブ・保育室等)の定期的な消毒の実施 * 定期的に窓を開けての換気 * ペーパータオルの使用 * 食事時の消毒(机、手指)の徹底
学校関係者評価委員会の評価			
評 価	意 見 等		
A	・接触の会費はとても難しいことであったが、クラスターの回避・発生防止は果たせている。 ・消毒や手洗いの徹底は改善されていた。		
項 目	令和2年度における取組	自己評価	評価内容
コロナ禍における行事の遂行	・行事の趣旨やねらいを重視し、可能な限りの保育を確保する。 ・緊急事態宣言等の状況を踏まえ判断する。 ・様々な観点からの感染予防策を講じ、規模の縮小や時間短縮等の工夫により可能な限り実施する。	A	・行事の趣旨やねらいを重視し、可能な限り保育を確保した。 ・緊急事態宣言等の状況に鑑みて判断してきた。 ・様々な観点からの感染予防策を講じ、規模の縮小や時間短縮等の工夫により可能な限り実施した。
学校関係者評価委員会の評価			
評 価	意 見 等		
A	・臨機応変な対応を行い、感染防止につなげることができた。		

評価（ A:成果を上げている B:ある程度成果を上げている C:もう少し努力が必要である D:改善が必要である ）

3 総合的な評価結果について

自己評価	理 由
B	・ 5つの項目について重点的に取り組んだ結果、まだまだ改善点はあるものの、一人ひとりの子どもの成長を見据えた教育・保育活動の提供と、コロナ禍での園運営ができたと感じる。 ・ 保護者アンケートからは、昨年度より“良い”の評価が高く、これからも自信をもって取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	
評 価	意 見 等
A	・ それぞれの項目で改善点があるものの、現段階では十分に達成できていると考えられる。

評価（ A:成果を上げている B:ある程度成果を上げている C:もう少し努力が必要である D:改善が必要である ）

4 今後取り組む課題について

課 題	具体的な取組み
コロナ禍の対応	・ 新型コロナウイルス感染症予防を実施しつつ新たな生活様式のもとに行う日常生活の立案、行事の実施や運営の工夫をする。 ・ オンライン研修を有効活用して、自宅等での参加など、参加しやすい環境をつくる。 ・ コロナ禍で実習や実践不足が否めない新卒採用者の対応を柔軟に行う中で指導の充実に努める。
保育環境の充実	・ 乳児用の図書コーナー等の環境構成や、室内玩具では当学園の玩具選定基準に基づいた見直しを行い、さらなる充実を図る。
職員の協力体制	・ 会議等の日程や時間帯を工夫し計画的に実施し、時間短縮等につなげる。 ・ 職員配置数が不足がちな早朝時や夕方以降に、職員の応援体制を整える。
仕事の効率化と働きやすい職場づくり	・ 主体的に良質な保育を提供しようとする反面、保育準備等に時間が多くとられていると感じるため、業務内容の見直しと改善を意識し、仕事の効率化につなげる。 ・ 勤務時間を有効に使えるよう、管理職が意識して職員体制や勤務体制を整えていく。